



公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会

Kagoshima Physical Therapy Association

No.92(131)

2022.3.14 発行

総会員 2,628名 (3/14現在) URL:<http://infokpta.com/>

E-mail:infokpta@po.minc.ne.jp



藤川天神の臥龍梅
(薩摩川内市)

第35回鹿児島県理学療法士学会報告	2~4
研修会報告 (学術部)	5
専門領域 研修報告	6~9
鹿児島・奄美地区 研修会報告	10~12
始良地区症例検討会 報告	13
北薩地区症例検討会 報告	14~15
大隅地区症例検討会 報告	16
鹿児島県理学療法士協会 写真コンテスト結果報告	17~19
新型コロナウイルス感染対策による 業務影響調査結果について	20~24
私と私の職場紹介	25
私のおすすめ	26
先輩認定理学療法士よりアドバイス	27
事務局より	28~30
編集後記	30

◆発行：公益社団法人
鹿児島県理学療法士協会

◆発行人：平名章二

◆編集：原口拓人

◆事務局：〒890-0063
鹿児島県鹿児島市
鴨池1丁目48-25

TEL：099(203)0860
FAX：099(203)0865

第 35 回鹿児島県理学療法士学会報告

第 35 回 鹿児島県理学療法士学会会長 有村宣彦
学会準備委員長 川上剛

令和 4 年 2 月 20 日 第 35 回鹿児島県理学療法士学会をオンライン形式にて開催いたしました。計画当初は対面形式とオンライン形式を組み合わせたハイブリッド形式も案として考えておりましたが、昨年末から新型コロナウイルス感染症オミクロン株の流行もあり、結果、オンライン形式で開催したことは適切な判断であったと思います。

学会参加者は約 290 名となっています。

この感染症が我々にどのような影響を及ぼすか予想も難しいところですので、今後の学会計画もいくつかの開催パターンを考えながら進めていく必要があるのかもしれない。

さて、今回は 25 名の先生方にこれまでの成果をご発表頂きました。通常であれば、発表後に懇談の席を設けることが通例ですが、今回は学会開催 5 日前にオンラインにて「顔合わせ会」と称して、座長と演題発表者にお集まりいただき、当日の流れや注意点をお伝えし、その後、各セッションに別れ、自己紹介や今回発表に至った過程などをお話頂きました。

また質問はチャット機能のみを用いて受け付けましたが、もう少し幅を広げた交流を、学会を通じて行って頂きたいこともあり、無料通信アプリ LINE のオープンチャット機能を使い、情報交換の場を設けました。実際、演題発表者からは発表内で用いた機材の動画を公開して頂くなど、今後、このような機能もさらに生かせるのではないかと思います。

ランチョンセミナーでは愛下由香里先生(理学療法士 霧島市立医師会医療センター 医療支援部長)に「前略、皆様。毎日ワクワクお過ごしですか?」というテーマで、理学療法士として、あるいは一人の人間として、どのように自分磨きをしていけばよいかというヒントをお話頂きました。

特別講演では「看取りに関わる時、理学療法士に出来ることは何か?」をテーマに濱田努先生(医師 さいれ浜田クリニック院長)に、理学療法士こそ人生の最終段階を迎えた方のお話を聴くことが出来るというメッセージも頂き、「苦しみを分かってくれる人がいるときに、死を前にしても、人は穏やかになれる」という援助の手法をお話頂きました。

講師お二人はいずれも鹿児島でご活躍中です。この学会をきっかけにご参加頂きました方々にはお二人の先生方と繋がって頂きたいという想いもありました。是非、今回ご参加頂きました会員の皆様、このご縁を繋げて下さい。

そして、ご縁を繋げて頂きたい方がもう一人。学会誌の表紙を情熱的な力強い作品で飾って頂きました火山灰アーティストの KYOCO さん。実は 2019 年には鹿児島県理学療法士連盟・政策検討委員会で開催した学生の皆さんと現職者との交流イベントでもご協力頂いておりました。

このように様々な繋がりを生かした第 35 回鹿児島県理学療法士学会でした。

学会を無事に終えることが出来たのは、計画の段階から関わって頂いた MBC サンステージ様、当日ご協力いただいた 13 名の運営スタッフの皆さん、そして一緒に何も無いところから作り上げて頂いた準備委員の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。ただ一つ心残りは、「学会打ち上げ」が出来ないこと。

この鹿児島県理学療法士学会はこれからも続いていきます。この学会が今後ますます発展することを願い、学会報告とさせていただきます。





研修会報告(学術部)

学術部
川田 将之

タイトル:脳卒中に対する歩行トレーニング 基礎から実際

講師:大畑 光司 先生(京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻)

日時:2021年12月12日(日) 9:30 - 16:40

参加者:243名

昨年の12月に令和3年度理学療法士講習会(基本編)が上記の通り開催されました。Zoomを使用したオンライン形式での講習会となりました。休日にも関わらず、多数の会員にご参加いただき、ありがとうございました。

大畑先生にはここ数年、毎年ご講演いただいておりますが、毎回情報がアップデートされており、大変勉強になる研修会でした。ご講演では、歩行のバイオメカニクス、生理学の基礎から始まり、脳卒中の歩行トレーニングを科学的にどのように実施すべきかを、多くの文献や先生の研究成果を基に丁寧にご教授いただきました。実際の介入場面を動画と筋電図を利用して説明していただき、臨床に直結する内容でした。また、活発な質疑応答も行われ、有意義な時間になったと思います。

大畑先生のご講演でのお言葉ですが、理学療法士には科学的に適切な介入を選択し、対象者に提供する義務と責任があります。そのためには、常に研鑽を続け知識と技術をアップデートする必要があります。現在、学術部では来年度の研修会に向けて準備を進めております。多くの方のご参加をお待ちしております。

「呼吸器系研修会」研修会開催のご報告

専門領域研究部理事 大渡 昭彦
部長 牛ノ濱政喜
部長 松田 史代
呼吸器系担当 坂元 将也

令和3年11月28日(日)初のWeb研修にて、2年ぶりの専門領域呼吸器系研修会を開催しました。昨年度は、コロナ禍にて研修会を開催することもできませんでした。コロナ以前には、呼吸器疾患の運動療法の研修は、実技も行っておりましたが、現状を考えると対面や実技は困難であるとの判断にてWeb研修で実技なしで実施しました。今回は、呼吸器疾患の運動療法概要と急性期の呼吸リハビリテーションの2コマに分けて研修会を実施しました。

呼吸器疾患の運動療法のテーマで、私の方で講義をさせていただきました。なぜ、呼吸器疾患の患者に対して運動療法を実施する必要があるのか？運動療法と併せて食事療法の大切さ、病期別の運動療法の位置付けについて、呼吸器疾患のリハビリテーション(コンディショニング、運動療法を中心に)の講義をさせていただきました。

急性期の呼吸リハビリテーションのテーマで、鹿児島生協病院の永田健二理学療法士に講義をしていただきました。急性期の呼吸リハビリテーションにおけるPICS(PICS-F)やICU-AWについて、急性呼吸窮迫症候群(ARDS)と敗血症のリハビリテーションにおける急性期呼吸リハビリテーションについて講義をしていただきました。鹿児島生協病院で使用している「離床プロトコル」についても提示していただきました。また、CRPとアルブミン(Alb)の関係についても講義していただきました。

アンケートでは、「今回の研修でリスク管理や運動療法など進め方がとても勉強になりました。」「呼吸器疾患の運動療法ではコンディショニングのエビデンスは低いが高重要性なこと、SpO₂の考え方など参考になった。」「低アルブミンの考え方、早期離床の考え方がとても参考になった」「早期離床に必要なリスク管理を栄養も含む他方面からも考慮して実施する必要があると感じました！」などの意見がありました。今後参加してみたいテーマでは、運動療法、維持期のリハビリテーション、呼吸器疾患と栄養療法、ADLトレーニングなどが上がっていました。

来年度は、コロナの状況によりますがハイブリッド(対面とWeb)研修で、症例検討やグループワークなども検討し、学びが多く臨床に役立てることが出来る研修会を開催出来るように考えています。

「循環器系」研修会開催のご報告

専門領域研究部理事 大渡 昭彦
部長 牛ノ濱政喜
部長 松田 史代
循環器系研修会担当 中尾 周平

令和4年2月6日(日)に心不全をテーマにして専門領域研究部循環器系研修会を開催いたしました。コロナの状況が許せば、対面にて実技を交えながら、開催したかったのですが、残念ながら、ZOOM 配信での開催となりました。受講者は18名であり、循環器疾患に携わられていない理学療法士にも数多く参加いただきました。

1セッション目に、鹿児島市立病院の宮崎晋宏先生に、「ガイドラインから読み解く心大血管疾患のリハビリテーション」というテーマでお話をいただきました。昨年、改定となった心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドラインについて、臨床的に分かりやすくお話いただきました。特に高齢化社会の中で、心疾患患者が増加している状況であり、中でも大動脈弁狭窄症(AS)に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を施行する患者が増加していることをお話されました。そして、術前のAS患者にはADLを維持する目的に運動療法を行い、TAVI術後は合併症などに留意する必要があるとお話いただき、単に積極的な運動療法を行えば良いというわけではなく、病態や病期に応じて、目標や治療方法を考慮していく必要があることを学ばせていただきました。

続いて、2セッション目に、国分生協病院の吉野徹先生に、「循環器のフィジカルアセスメント」というテーマでお話をいただきました。循環器の解剖や生理を基礎とし、どのような病態や病期で、どのような臨床症状が診られるかを臨床的側面から丁寧にお話いただきました。特に心不全増悪時の症状とアセスメントについては、循環器疾患を診る上では、重要なポイントであるとお話されました。さらに、心音聴診はなかなか理学療法士として行うことが難しいアセスメントではありますが、病態を把握する上では、欠かせないものであるため、少しずつ聴き慣れていく必要があるとお話いただきました。

冒頭にもお話ししましたように、対面が叶えば、実技を交えて、お話いただき、より活発な研修会となったことと思います。本研修会は、今後もコロナの状況に合わせて、色々な研修を企画していきたいと思っております。鹿児島県理学療法士協会ホームページ等にてご確認いただき、是非ともご参加くださいますようお願いいたします。この度、講師を引き受けていただきました2名の先生方、また、本研修会の運営に携わられた先生方、この場を借りてお礼申し上げます。



「神経系研修会」研修会開催のご報告

専門領域研究部理事 大渡 昭彦
部長 牛ノ濱政喜
部長 松田 史代
神経系理学療法係
特定医療法人菊野会 菊野病院
村上 勇太

今年度は新型コロナウイルス感染の影響もありまして、神経系研修会は1回のみで開催となりました。今回、1月30日に開催しました鹿児島県理学療法士協会、専門領域研究部、神経系理学療法研修会「脳卒中片麻痺回復のための運動療法」について紹介させていただきます。

当日は鹿児島大学病院の上間智博先生にZOOMを用いてオンラインにて「脳卒中片麻痺回復のための運動療法」について話をいただきました。参加者は10名で、県内の1年目から15年目の経験年数の方の参加がありました。

講義内容としては前半に脳卒中ガイドラインを基に、エビデンスに基づいて科学的に理学療法を行っていくことの重要性をお示しいただきました。その中で促通反復療法のエビデンスも示していただき、臨床での実技動画や効果判定の動画を視聴しながら説明していただきました。講義を聞きながら、常に私たち個人の知識レベルをバージョンアップしていくことの必要性を感じました。

後半では健側優位歩行練習の紹介をしてくださり、従来の麻痺側重心移動練習ばかりを行うことが全てでは無いことをお示しいただき、非麻痺側での調整の重要性を学ぶことができました。

先生の講義の中で印象に残っている言葉があります。それは「他動運動でなく自動運動を積極的に行うべき」という言葉です。従来のリハビリではストレッチなどの他動運動が多く用いられることがあり、治療者依存になる患者様が多かったように感じます。今回の先生の講義や治療法では患者様の自動運動に重きを置くことでより治療効果を高めることが出来、患者様主体の治療に移行できることも学びました。

今回はオンラインでの開催だったため実技指導が難しく、講師の上間先生もやりづらさを感じたのではないかと思います。本来なら専門領域研修会は実技主体の研修会ですので、参加者の先生にもご迷惑をおかけしたかもしれません。しかし内容は非常に濃ゆく、とても有意義な講義になったかと思います。

今後コロナウイルス感染症が落ち着き、実技研修等が当たり前に行えるようになることを願っております。今後も神経系研修会への皆さんの参加を是非お待ちしております。

「スポーツ系研修会」研修会開催のご報告

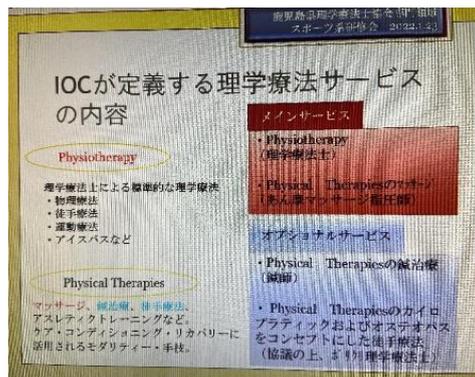
専門領域研究部理事 大渡 昭彦
部長 牛ノ濱政喜
部長 松田 史代

令和4年1月23日(日)に今村総合病院スポーツ整形外科の轟原与織先生を講師としてお迎えし、「大会メディカルスタッフとしての役割」というテーマで鹿児島大学医学部保健学科よりZOOM配信にて、研修会を開催いたしました。轟原先生は、10月発行のwebニュースでもご紹介しましたが、東京2020オリンピック大会にメディカルスタッフとして参加され、コロナ禍で厳しい条件での新しい形式のスポーツ大会の在り方や、事前研修会から大会当日までの対応の仕方など非常に貴重なお話でした。内容といたしましては、1「新型コロナウイルス感染症との向き合い方」では、オリンピック期間中で経験されたこと、今後のサポートの仕方、2「スポーツ理学療法の現状」では、IOCから期待されたもの、世界基準、スポーツ理学療法のこれまでとこれから、3「急性期の対応の実際」では、アイシング、固定法、搬送法、4「東京2020オリンピック医療支援」では、理学療法士として、メディカルチームとして、大切な事、等々内容も盛りだくさんで、非常に楽しく講義をしていただきました。

(途中に、オリンピックマークの五輪の輪クイズなどもありました…。)

苦勞をされた点では、AIを使った翻訳機で外国人選手との問診・記録や感染対策に気を配りながらの迅速な対応や、ほとんどの外国の理学療法士と違い日本ではダイレクトアクセスは不可であること、なかでも空手競技で実際に体験された「肘関節損傷」と「脳震盪」の場面の動画では緊張感のある場面で、講師の轟原先生が活動してる姿が拝見できて、大変貴重な研修会でした。

2023年10月には「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」も開催予定です。スポーツ系研修会では、来年度も様々な研修会を企画していきたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。



鹿児島・奄美地区合同研修会報告

鹿児島地区長

八反丸リハビリテーション病院 五十峯 淳一

厚地リハビリテーション病院 東 幸太

奄美地区長

奄美市笠利国民健康保険診療所 當田 直哉

2021年度の鹿児島・奄美地区合同研修会を令和3年12月3日にWeb開催という形で行わせて頂きました。講師は、きいれセントラルクリニックの下江 甲作 先生(運動器認定理学療法士)に、

『股関節疾患に対する理学療法 2』というテーマでお話し頂きました。

Web開催ということで、運営方法などを共有する、鹿児島・奄美地区協会員とのつながりを生む目的などもあり、今回は特別に鹿児島・奄美地区合同という形での開催という形になりました。参加者数は、総数51名 鹿児島地区35名 奄美地区16名となり、良い交流機会をもつ事ができたと思います。

Web開催が離島の奄美地区協会員にとっては移動距離ハンディを解消できるという事もあり、例年より参加しやすい研修会となったのではないかと思います。



研修会の内容としては、1年目～3年目の新人理学療法士を対象となっておりますが、股関節の基本的な解剖運動学、肢位や角度による筋の働きといった講義があり、そこから実際に下江先生が受け持たれた症例の、評価から治療プロセス、結果からの考察などへ繋がっていく内容でした。治療プロセスにおいては、様々なアプローチの解説もあり中堅理学療法士の方々にも身になる研修会だったのではないかと思います。

まだまだコロナ禍がどうなっていくかわからない状況ではありますが、私たちが会員の皆様へ何が提供できるか模索してより良い研修会や症例検討会を提供できていけたらと思います。

鹿児島・奄美地区 研修会報告

鹿児島地区長
八反丸リハビリテーション病院 五十峯 淳一
厚地リハビリテーション病院 東 幸太
奄美地区長
奄美市笠利国民健康保険診療所 當田 直哉

令和3年度の鹿児島・奄美地区合同症例検討会を令和4年1月14日にWeb開催という形で行わせて頂きました。Web開催により、鹿児島市内でも離島でも地域を問わず参加が可能となり、地区間とのつながりを生む目的も含めて、今回は特別に鹿児島・奄美地区での合同開催という形になりました。発表者5名を含む総数30名近い方々にご参加頂き、良い交流機会の場として、症例検討会を開催する事ができたと思います。

4, 理学療法評価 ①

検査項目	Rt	Lt
Brunstrom Stage	四肢: VI	
病的反射	-	-
深部腱反射	上肢: +~+++ 下肢: +	上肢: +~++++ 下肢: +
協調性検査	反復拮抗運動不能: + 測定障害: +	反復拮抗運動不能: + 測定障害: +
SARA	10.5/31点 (8は除外)	
ロンベルグ率	0.9	
眼振検査	-	-



症例検討会の内容としては、中枢性疾患の脳梗塞や正常圧水頭症、運動器系の上腕骨骨折、大腿骨頸部骨折、脛骨骨切り術など、幅広い症例についてご発表いただきました。また『前庭、平衡リハビリテーション療法』などのトピックスの発表もあり、大変有意義な症例検討会を開催することができました。

まだまだコロナ禍がどうなっていくか分からない状況ではありますが、私たちが会員の皆様に何が提供できるか模索してより良い研修会や症例検討会を提供できていけたらと思います。多くの会員の方々の参加をお待ちしております。

鹿児島・奄美地区 研修会報告

奄美地区長

奄美市笠利国民健康保険診療所 當田 直哉

令和4年2月18日、奄美地区研修会をWeb形式で開催しました。講師は、ちゅうざん整形外科・内科・胃腸内科の牛ノ濱政喜先生(運動器専門・認定理学療法士)に、『股関節疾患の理学療法』というテーマでお話し頂きました。

Web開催ということで、奄美地区協会の参加のみならず、鹿児島地区協会も参加して頂き、20名あまりの参加者となりました。非常に内容の濃い研修会となり、質疑応答も活発に行われ、良い交流の場でもあったと思います。



「いつものアプローチの内容を少し変えることで、大きな質の変化に繋がる」

- 「障害を理解し共有する」
障害の知識、合併症、ADL状況、社会的な問題、性格
- 「評価能力を上げ、アプローチ法を考える」 急性期・生活期・慢性期
運動学、解剖学的に障害の論理的解釈と説明ができる
⇒ 日々の臨床で「考える習慣」を付ける
⇒ 仮説を立てて何度も工夫する、症例数をこなす
- 「多くの情報を持つ」 ⇒ 文献を検索する(対象者、方法、統計処理も考慮)
⇒ 学会、研修会
⇒ 先輩、同僚、後輩のリハを見学する
- 「同じベクトルの仲間を持つ」 ⇒ 職場内・外での交流も大切

講義の内容としては、股関節の検査方法、評価、画像確認の方法から始まり、アプローチする際のポイント、疾患別での考える視点、実際の症例紹介、臨床における理学療法士としての心構えなどボリューム満点でした。また、参加者には貴重な資料を頂き、復習に大いに役立っているのではないかと思います。

私たち奄美地区としては、今回のようなWeb開催は参加しやすいプラスの面も生まれております。

まだまだコロナ禍がどうなっていくか分からない状況ではありますが、会員の皆様に何が提供できるか模索して、より良い研修会や症例検討会を提供してまいります。

『始良地区 症例検討会』の開催報告

始良地区担当理事 弥栄 博文

始良地区長 増山 泰英

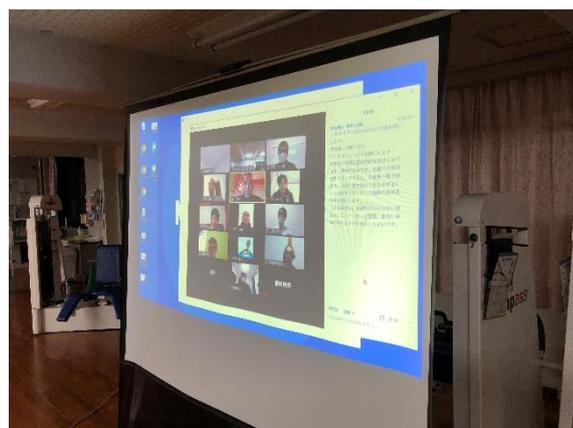
本年度の始良地区の症例検討会は、当初12月9日の1回のみ開催予定でしたが、多くの先生から発表希望がありましたので、12月9日と1月13日の2回に分けてWeb開催しました。

発表者がZoomを使用しての口述発表を行い、質疑応答の時間にて聴講参加者とディスカッションをする形式で実施しました。Web形式という慣れない環境での試みで課題もありましたが、座長のスムーズな進行により大きな問題もなく無事終わられました。

来年度は新生涯学習プログラムが開始されるので開催形態に変化があるかもしれませんが始良地区会員の皆様の役立つ症例検討会を開催していきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。



第1回 症例検討会 令和3年12月9日 木曜日 発表者6名 聴講参加者51名



第2回 症例検討会 令和4年1月8日 木曜日 発表者7名 聴講参加者56名

北薩地区症例検討会 報告

北薩地区 地区長
クオラリハビリテーション病院 鈴東 伸洋

2021年度の第3回北薩地区研修会を、令和4年1月12日(水)19:00～20:30、オンライン研修会(zoomミーティング)という形で開催しました。

今回は、「症例検討」で、参加者数は65名でした。

座長) 川内医師会立市民病院 : 野間口 猛 先生

1)「術前・術後の長期臥床により機能回復に難渋した症例について
～人工骨頭挿入術患者の起立動作に着目して～」
クオラリハビリテーション病院 久本 拓海 先生

2)「生理的足継ぎ手付き短下肢装具の継ぎ手の軸が下肢運動に及ぼす影響」
「変形性膝関節症を有する片麻痺患者に対するOA用AFOの使用経験」
出水郡広域医療センター 才田 剛志 先生

座長) 出水郡広域医療センター : 瀧脇 直也 先生

3)「パーキンソン病患者の座位耐久性向上に向けて」
クオラリハビリテーション病院 松元 鈴花 先生

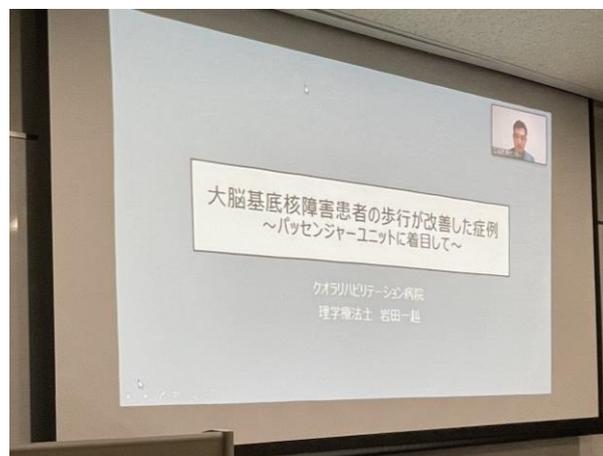
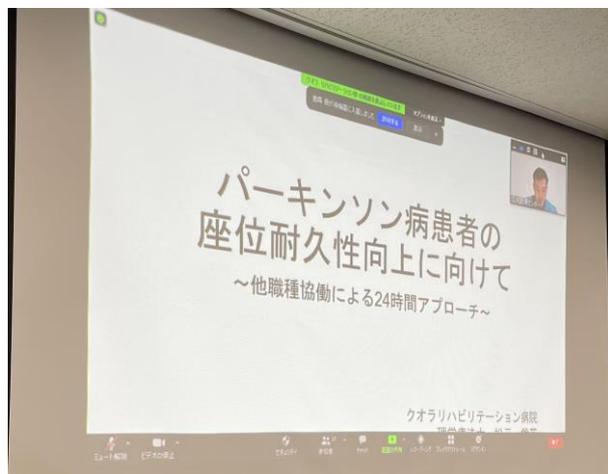
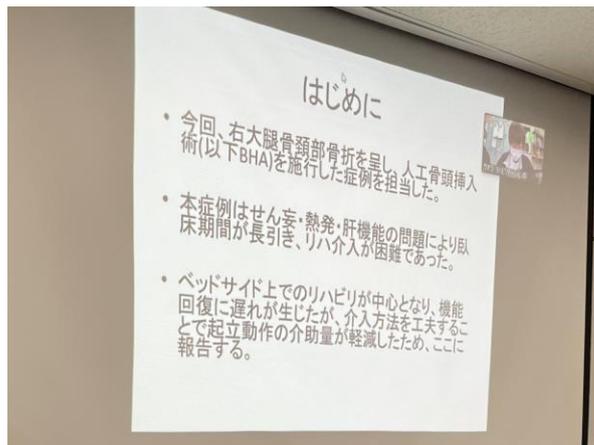
4)「大脳基底核障害患者の歩行が改善した症例 ～パッセンジャーユニットに着目して～」
クオラリハビリテーション病院 岩田 一赴 先生

昨年度行えなかった症例検討会を、今年度はオンライン研修という新しい形で開催し、4名の先生方の演題発表を行いました。単一症例検討においては、主観的評価に加え、必要な評価表を用いて総合的な考察を行っていました。中には複数のデータを取りまとめ、客観的な数値や画像での分析を用いた学術的にもレベルの高い発表もあり、充実した内容になりました。

今回初めてオンラインでの演題発表(症例検討)を行いました。北薩の広い地域の中で、また生活における限られた時間の中での地区活動において、他施設の会員同士における学びの場として、ICTの活用は大きな可能性を秘めていることも感じました。

次年度からは、新生涯学習システムの導入で新しい形での症例検討会も開催されていくことになると思いますが、北薩地区会員皆様の成長と発展のサポートとなるよう活動していきたいと思っております。

今回、演題発表を行ってくださった4名の先生方、座長を引き受けてくださった2名の先生方に感謝いたします。



大隅地区症例検討会 報告

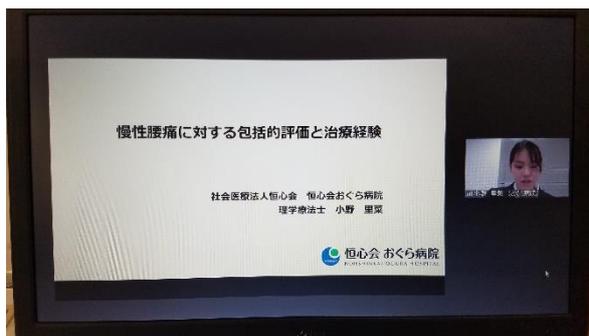
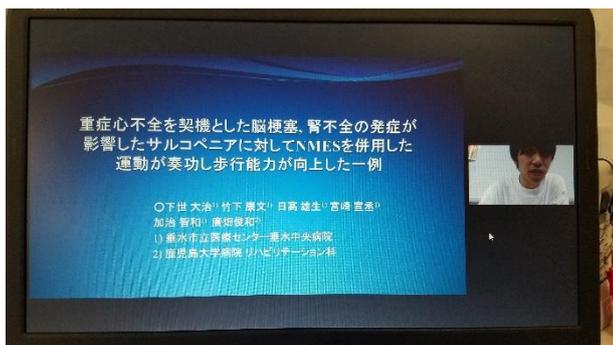
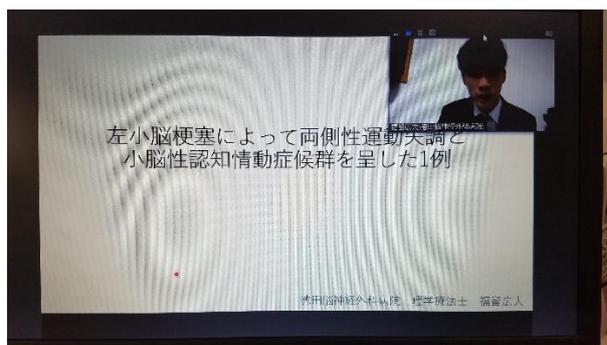
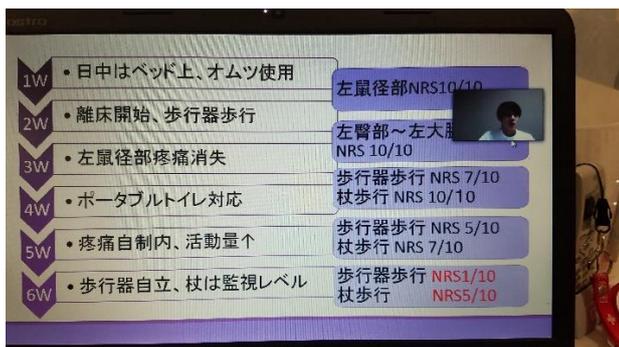
大隅地区長

恒心会おぐら病院 永濱 良太

榎畑 純二

2021年度の大隅地区症例検討会を11月26日にオンラインで開催いたしました。

発表者4名エントリーいただき、参加者34名でした。演題として「左下肢に疼痛出現し歩行に障害をきたした一例」、「左小脳梗塞によって両側性運動失調と小脳性認知情動症候群を呈した1例」、「重症心不全を契機とした脳梗塞、腎不全の発症が影響したサルコペニアに対してNEMSを併用した運動が奏功し歩行能力が向上した一例」、「慢性腰痛に対する包括的評価と治療経験」を発表いただきました。1~2年目の発表が多かったのですが、どれも評価、検証、計画を細かく取り組まれおり、質疑応答も活発にいただきました。今回の内容も含め、症例検討の積み重ね重要性を再度認識させていただき、日々、地区の各施設で研鑽されていることが伝わりました。来年度もさらに多数の発表者、参加者をお待ちしています。



写真コンテスト結果発表！

福利厚生部 川上 剛

お待たせいたしました！

鹿児島県理学療法士協会福利厚生部 2021 年度写真コンテストの結果発表です。

数ある作品の中から、最優秀賞、優秀賞、佳作を発表します。

最優秀賞 (1点)

受賞者：岩森 俊 作品名：チルってるひと時

エピソード：コロナ第6波で様々なことに気を張っていた秋に、屋外歩行を行っている中で自分自身もチルった（落ち着いた）場面です。



優秀賞 (2点)

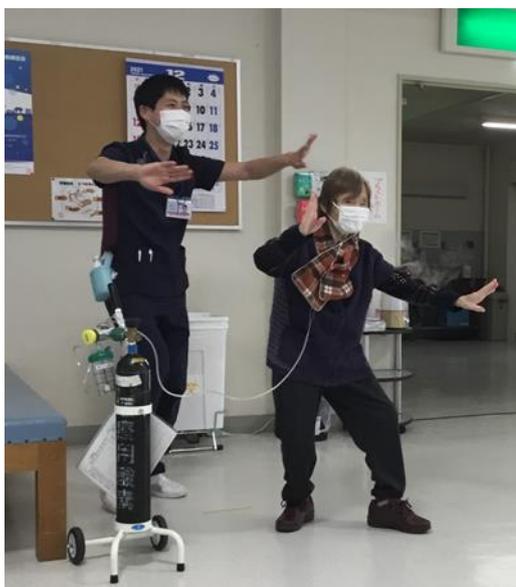
受賞者：小牧 隼人 作品名：花ひらく

エピソード：短時間デイケアで、取り組み始めたコップタワー。麻痺の残る右腕で何度も何度も挑戦し、ようやく奥様や仲間に見守られ、初めてできた瞬間です。



受賞者：田中 精一 作品名：コロナに負けんど！

エピソード：新型コロナウイルス肺炎後のリハビリ目的で入院された患者様。前向きにリハビリに取り組んで頂き、大好きな踊りを踊れるまで元気になりました。マスクの下は笑顔です。



佳作 (1点)

受賞者：白尾 麻美 作品名：ミライの笑顔

エピソード：実習前に実技練習を行う、講義風景です。少しでも患者様の笑顔が見たくて、真剣に練習に取り組んでいます。



写真コンテストの結果は鹿児島県理学療法士協会ホームページにも掲載しております。

新型コロナウイルス感染対策による業務影響調査結果について

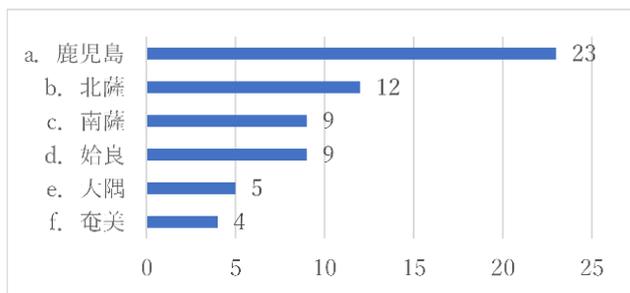
広報・調査担当理事 湯地 英充
調査資料部長 福永 裕樹

先般お願い致しました新型コロナウイルス感染対策による業務影響調査に関するアンケートについて、ご協力頂き、誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症拡大における会員の皆様の実情や各施設での対策への取り組み状況、臨床実習受け入れ状況ならびに研修会について、様々な有益な情報を収集することが出来ました。つきましては、下記の通りご報告させていただきます。

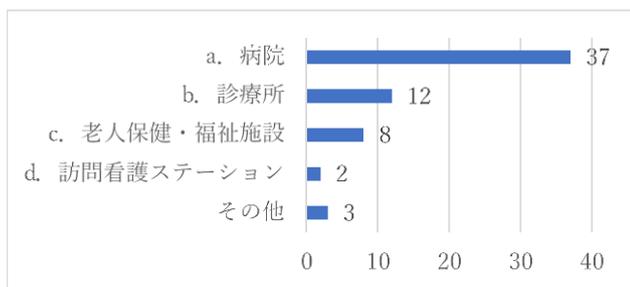
対象:施設代表者(回答数62件) 期間:2021年10月4日(月)～ 11月6日(土)

回答者情報

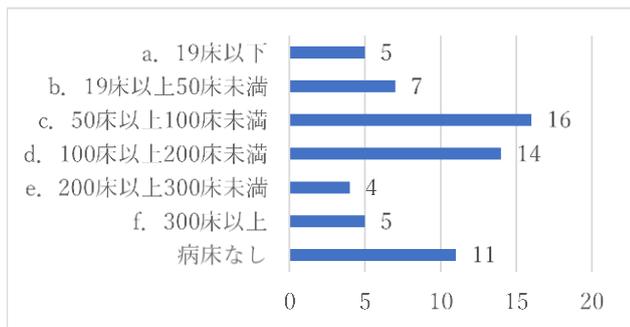
1. あなたの所属地区は？ (回答数 62 件)



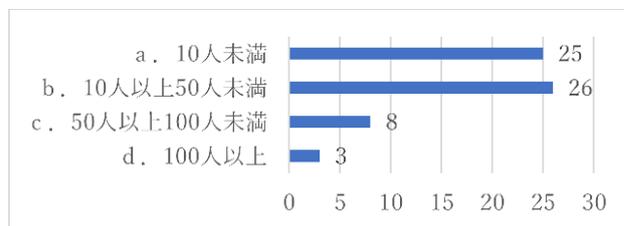
2. あなたの所属する施設形態は？ (回答数 62 件)



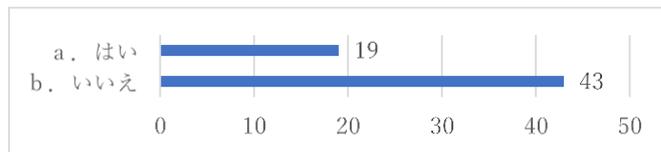
3. 病床がある場合、あなたの所属先の病床数は？ (回答数 62 件)



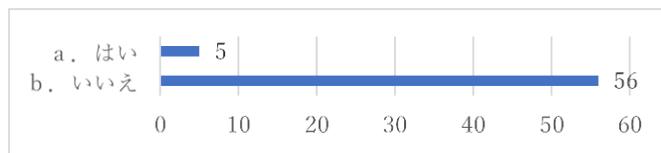
4. リハ専門職スタッフ数は何人所属していますか。 (回答数 62 件)



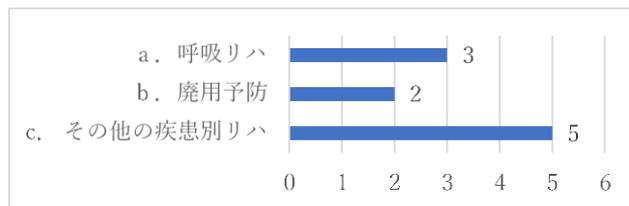
5. 現在、COVID-19 を施設として受け入れていますか。 (回答数 62 件)



6. COVID19 患者のリハビリを実施していますか。 (回答数 61 件)

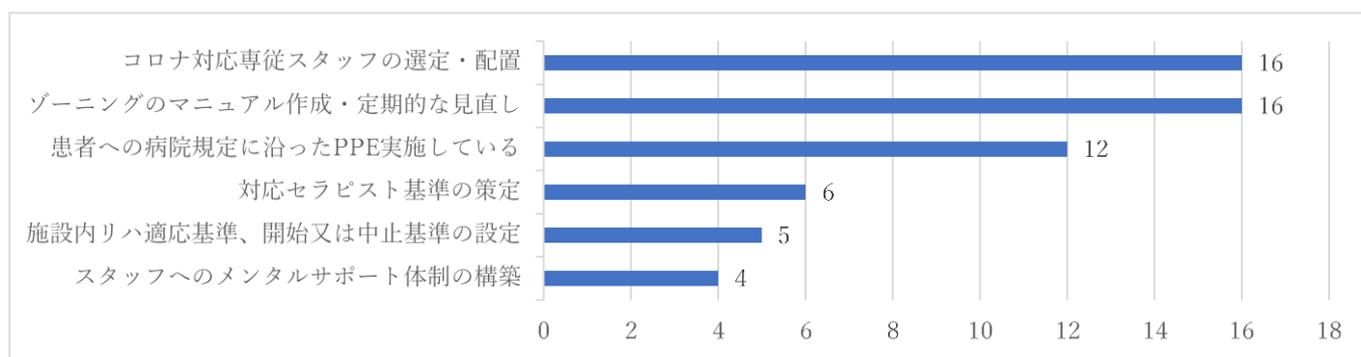


7. COVID-19 患者のリハビリの主な目的はどれですか？ (回答数 10 件)

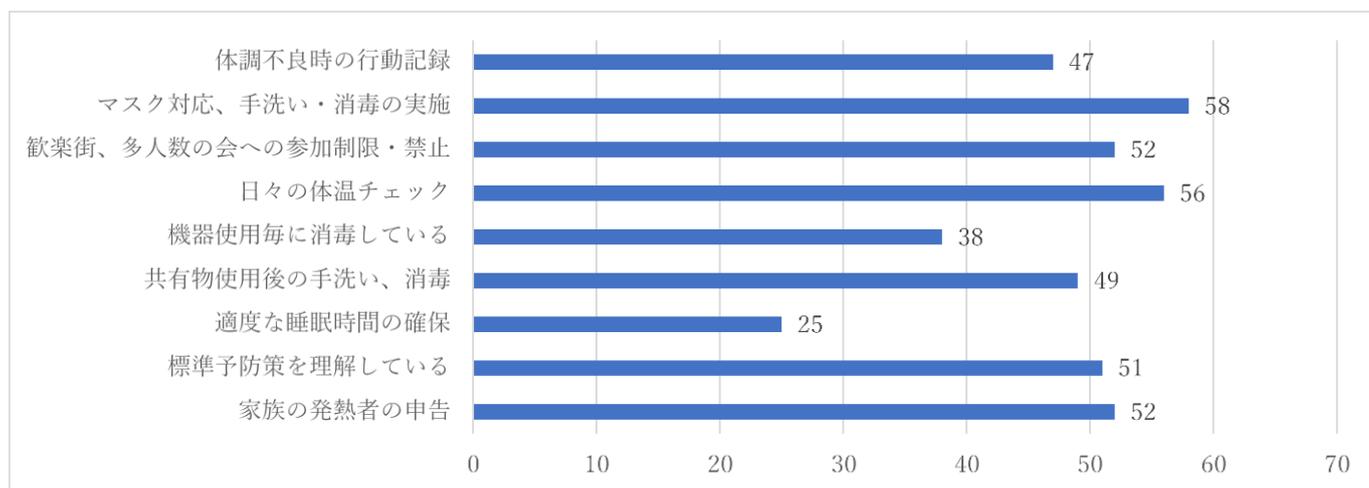


8. COVID-19 リハ対応としての取り組みについて、対応しているものに全てチェックをお願いします。

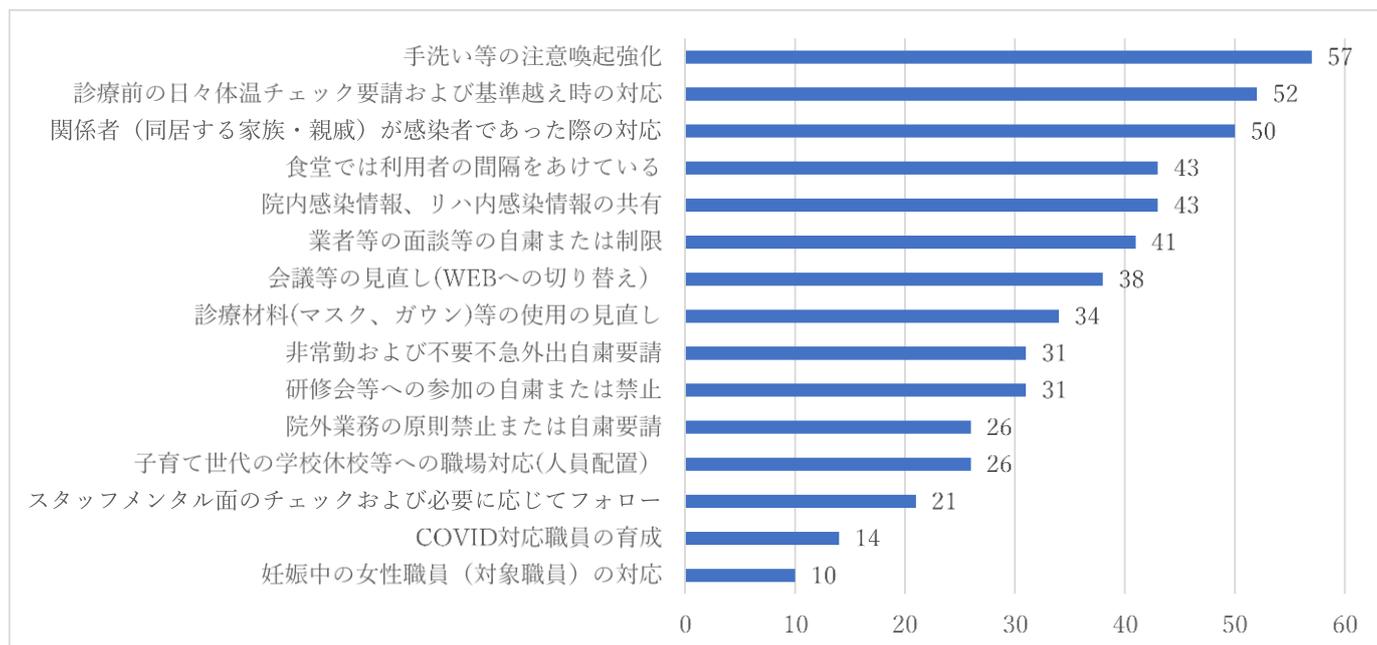
(回答数 17 件)



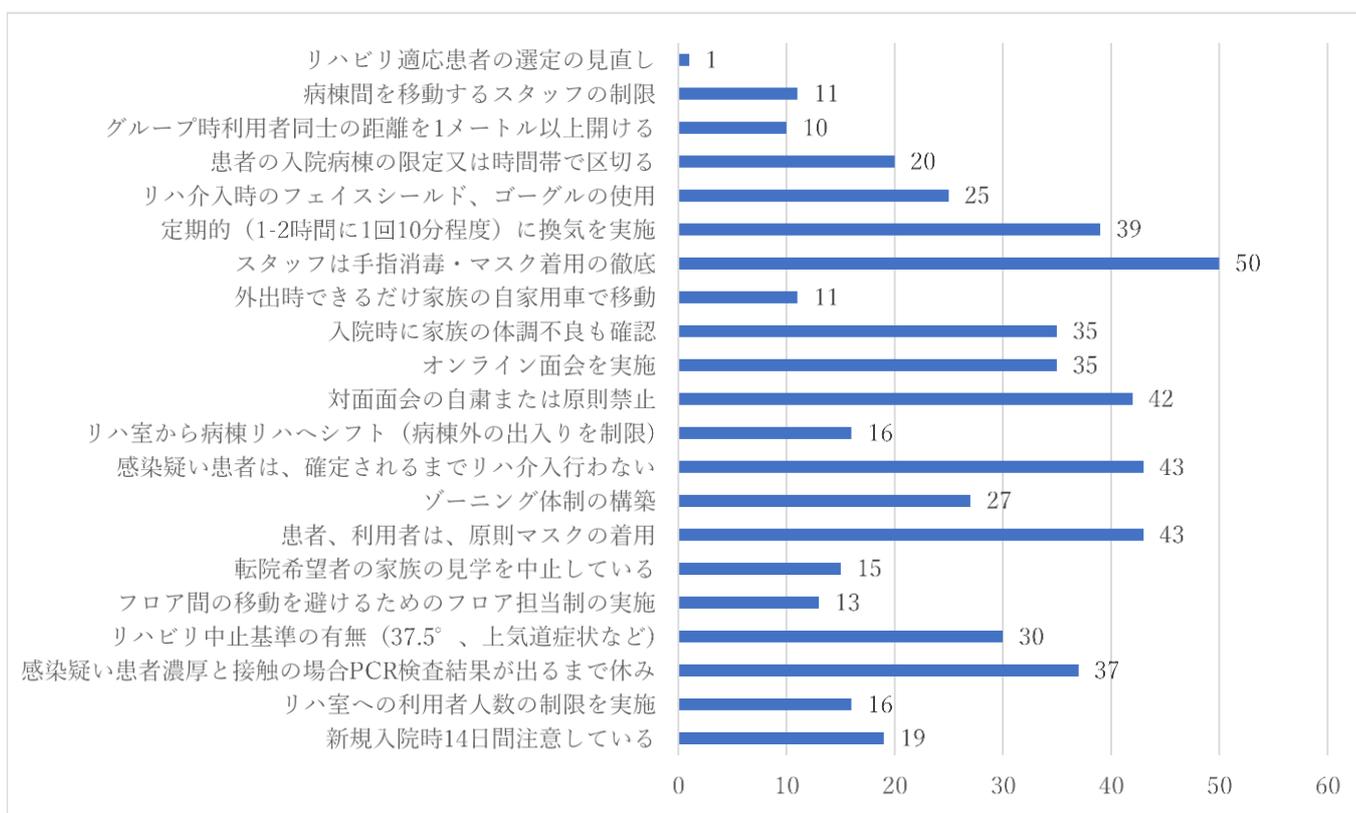
9. 個人レベルで COVID19 対応として行っているものについて、下記のもので実施しているものにはすべてにチェックをお願いします。(回答数 62 件)



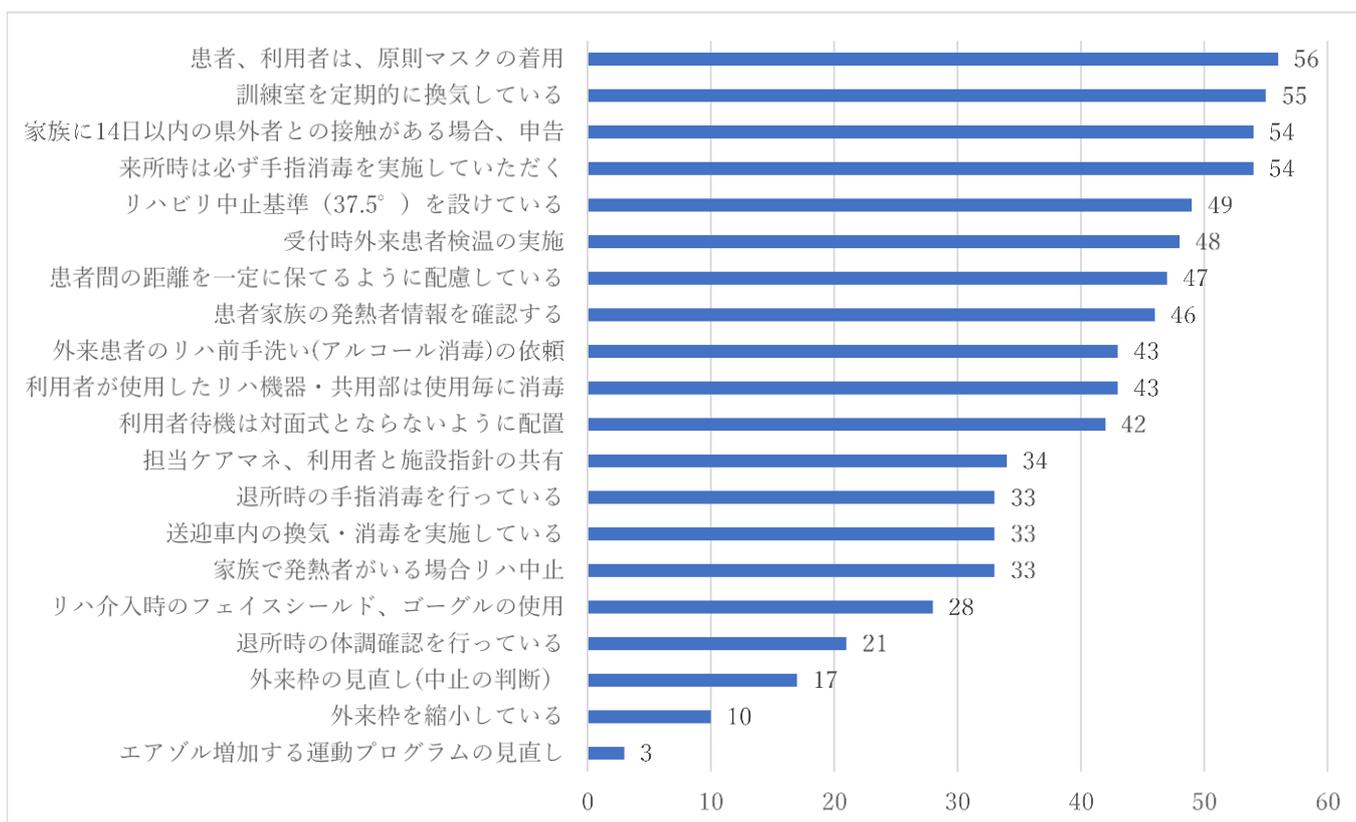
10. 組織レベルで COVID19 対応として行っているものについて、下記のもので実施しているものにはすべてにチェックをお願いします。(回答数 57 件)



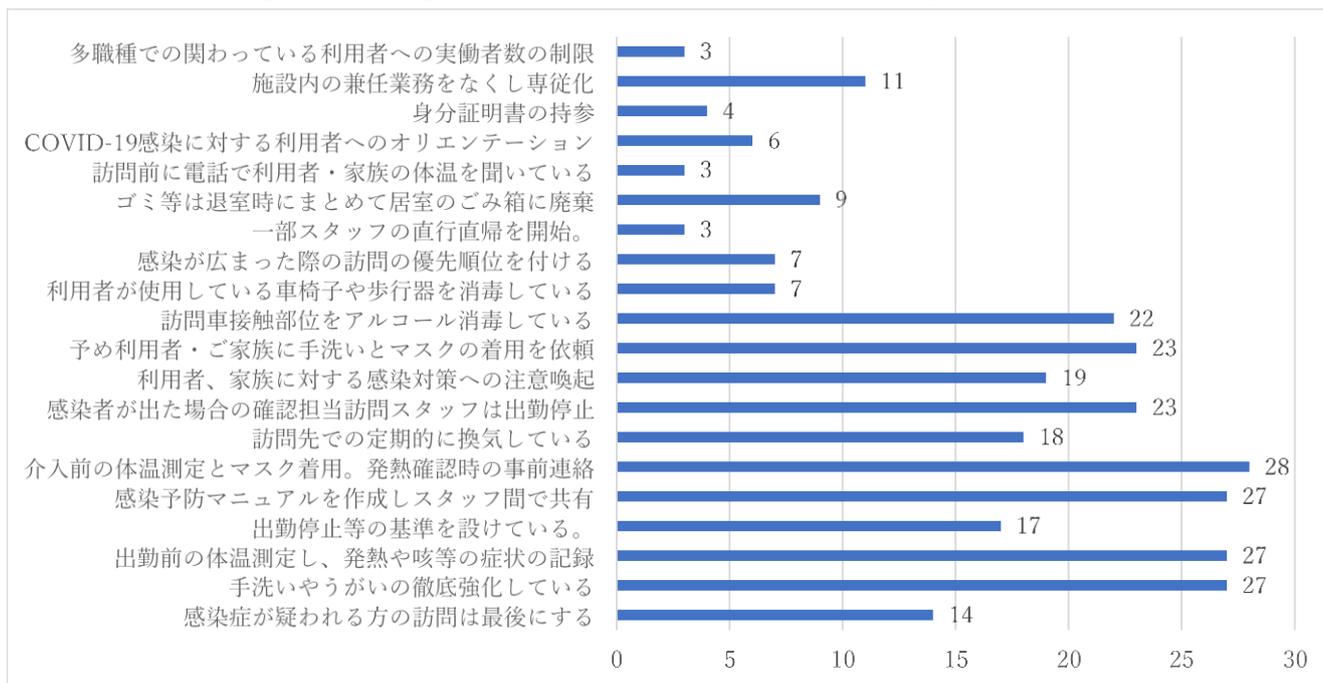
11. 入院（急性期・回復期）・入所の対象者に対し下記のもので実施しているものにはチェックをお願いします。
（回答数 51 件）



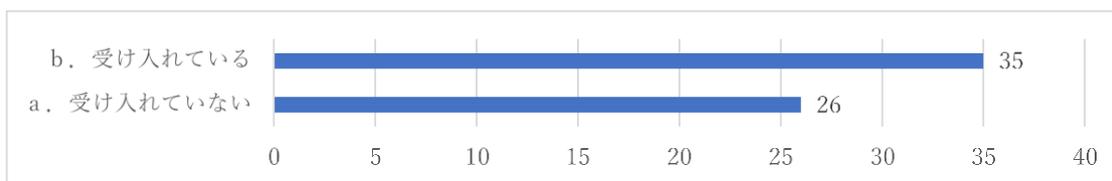
12. 外来リハやデイケアの対象者に対し下記のもので実施しているものにはすべてにチェックをお願いします。
（回答数 60 件）



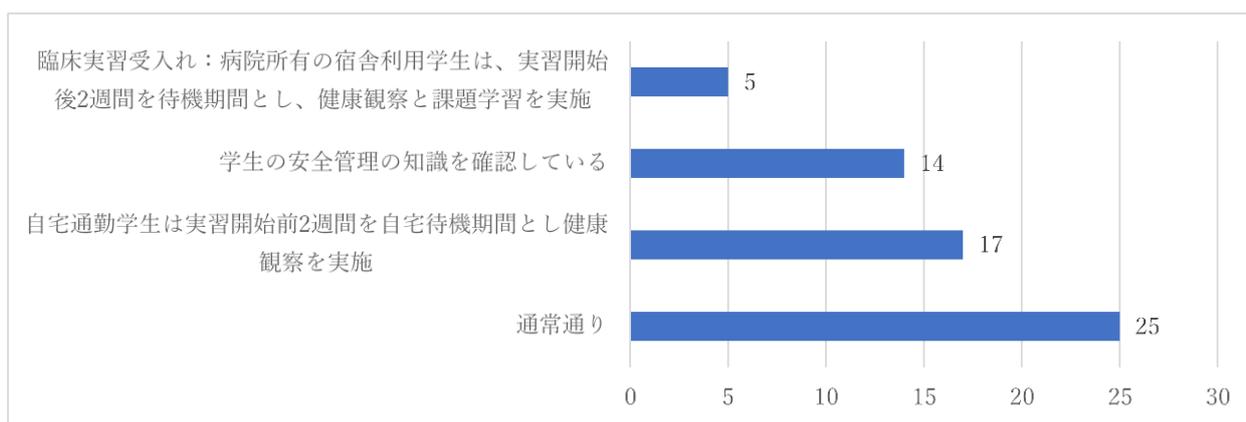
13. 訪問リハでの対応について下記のもので実施しているものにはチェックをお願いします。(回答数 31 件)



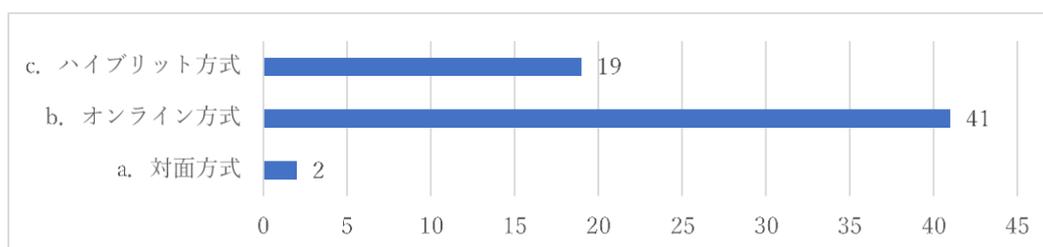
14. 臨床実習受入れについて (回答数 61 件)



15. 臨床実習を受け入れる予定とした方にお聞きます。どのような形態で受け入れる予定ですか (回答数 35 件)



16. 研修会の開催方法として、どのような研修会が参加しやすいですか？ (回答数 62 件)



17. 貴施設での取り組みについてご紹介いただけるものがありましたら下記にご記入ください (自由回答)

- ・ その時々に変更するが、やや厳しめに規定されている。
- ・ COVID-19 患者のリハは術後等、やむおえない場合のみ実施。県外実習生のみ宿舎で 2 週間待機後 (実習期間に含めるかについては養成校の判断)、臨床実習開始としている。
- ・ COVID-19 感染隔離者へビデオ通信機器を使った遠隔での自主トレ指導を実施した
- ・ ZOOM 等で、定期的に打ち合わせなどを行い、有事にリモート対応可能な練習を行っている
- ・ リハビリスタッフ全員、毎朝と昼の 1 日 2 回の検温を実施
- ・ 入院患者でマスク装着が困難な患者における、スタッフのフェイスシールド装着の対応
- ・ 入院患者の、原則、自室での食事対応 (食堂誘導患者の制限)
- ・ 昼と夕方の、リハビリ使用スペースの消毒拭き上げ作業
- ・ 予定入院の患者さんについては、前日の PCR 検査 (緊急入院等については PCR 検査結果確認後、病棟移動)

私と私の職場紹介

医療法人明正会 今林整形外科病院
和田 卓也

暖かい春の日差しを感じる頃となりましたが、鹿児島県理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今回は、私の職場である「医療法人明正会 今林整形外科病院」をご紹介します。

私が勤める今林整形外科病院は、温泉地としても人気のあるここ鹿児島県指宿市に1976年に設立され、2021年で45周年を迎えました。診療科は、整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科があり、病床数は一般病棟50床(うち地域包括ケア病床20床)、回復期リハビリテーション病棟60床の計110床です。また、関連施設として「クリニックリハビリ菜の花」「指宿温泉菜の花苑」「介護支援ネットワーク菜の花」「麻布十番今林クリニック」があります。整形外科・リハビリテーションの専門病院として、施設ケアから在宅ケアまでの全てのライフステージをサポートすることで地域の人々の健康を見守り、支えていくことができる医療機関を目指しています。

病院リハビリテーション部には、理学療法士28名、作業療法士10名、言語聴覚士2名、リハビリ助手2名の総勢42名が従事しています。リハビリテーション専門職は「患者さまを中心とした考えと行動」の理念のもと、患者さまが住み慣れた地域で日々の生活を続けていくために「何が必要なのか?」「自分たちには何ができるのか?」理学療法評価に基づいて仮説と検証を繰り返しながら臨床に臨んでいます。

現在、私は外来リハビリテーションに従事しています。主に術前の状態管理や術後急性期、スポーツ障害などに対してサポートを行っており、学生からご高齢の方まで幅広い年齢層の方々が通院されています。

私自身は、県外にて数年勤務したのち「地元である指宿に貢献したい」という思いからUターン就職しました。今の職場では、後輩育成や教育環境の構築などを任せて頂いており、県外で培った様々な経験や知識を臨床に活かしている事を非常に嬉しく思うと同時にやりがいを感じています。臨床を通じて後輩育成を行うことで、自身の成長だけでなくリハビリテーション部全体の質の向上に繋がると信じ、今後も「地域に寄り添える温かく良質なリハビリテーション」が提供できるようにスタッフ一同精進して参ります。



私のおすすめ

加治木温泉病院
佐々木 翔健

私が新人であった 1~2 年目の頃、歩行運動に対してどのようなアプローチをしていたか振り返ると、多くは関節角度や姿勢アライメント、筋緊張など身体機能に着目し、評価・治療展開していく事が多くあったように思います。その当時に参加していた研修会の多くは機能障害にフォーカスしたものがほとんどで、歩行運動の本質についての理解は乏しい状態でありました。しかし、鹿児島で行われた著者の講演を拝聴し臨床経験を積み重ねていく中で「自分の提供する理学療法は果たして目の前の対象者が望んでいる事に応えられているのだろうか？」と疑問を感じるようになりました。そのような経験から機能障害に対するアプローチのみでは生活障害を有する人々に対して、十分な歩行リハビリテーションを提供したとは言い難いと考えようになりました。本書の中でも、ICF 分類において「歩行」は活動制限の主体である事から、参加・個人・環境因子など多方向からアプローチしていく必要がある事を述べており、それらの関係性をしっかりと整合性を持たせて理解する事が重要であると感じました。歩行理論についても運動学、運動力学をイラストや写真を多く用いて解説しており、実際の歩行運動をビジュアル的にイメージしやすい内容となっています。さらに、臨床現場において歩行の問題点をどのように抽出し評価～治療展開を行ったらよいか？解決すべき問題点の優先度や効果的な装具の活用方法など歩行リハビリテーションを体系的に学ぶ上で非常に参考になるかと思えます。是非、一読して頂けると幸いです。



書籍名: 歩行再建-歩行の理解とトレーニング

著書: 大畑 光司

発売元: 三輪書店

先輩認定理学療法士よりアドバイス

認定理学療法士(脳卒中)
キラメキテラスヘルスケアホスピタル
大迫 尚仁

◆取得しようと思ったきっかけ・分野について

認定理学療法士を目指したのは6年前になります。当時、私が勤めていた病院では重度の片麻痺や高次脳機能障害を呈した患者様が多く、「どうしたら改善が見込めるか。」「退院後の生活をどのように思い描きアプローチを行うべきか。」日々の業務に追われながらも悩んでいた時期でした。このままで良いか考えた時に、認定理学療法士を取得することで新たな発見や気づきに出会えるのではと思い、取得を目指しました。

◆研修会受講・症例報告・試験への対策について

取得を目指した際、職場には認定理学療法士を取得している同僚がおらず、どのようなことをしたら取得できるか調べることから始まりました。当時は、症例報告も何が正解か分からず、ドキドキしながらレポートを作成した記憶がありますが、現在は日本理学療法士協会のホームページに症例報告の作成例が掲載されているため、参考にしてみてください。ただし、来年度より新生涯学習システムへの移行のため取得要件が、「カリキュラム(40コマ(60時間)以上 60コマ(90時間)上限)の受講と、定められた研修会に参加・受講し、試験に合格する。」へ変更されております。日本理学療法士協会からの情報を小まめにチェックしながら、取得を目指していただければと思います。

◆認定理学療法士を取得して

認定理学療法士を取得したことで、様々な依頼を頂きました。私個人としては、学術的な深まり以上に依頼を通して様々な方と繋がりを持つことができ、当初考えていた新たな発見や気づきに出会うことができいております。

◆今後の目標など

今年度、認定理学療法士(脳卒中)の更新対象となっておりますが、取得以降の5年間で臨床現場を離れる時間が多くなり、更新できるか不安な面がありました。しかし、周囲のご協力のおかげで先日、無事に合格の結果通知を頂くことができました。認定理学療法士の名に恥じぬよう、これからも自己研鑽を続け、また、新たな分野の取得も目指して取り組んでいきたいと思っております。

事務局より 令和4年12月1日～令和4年2月28日現在受理分

令和4年度鹿児島県理学療法士協会会費について

令和3年度鹿児島県理学療法士協会会費は、コロナ感染症の影響により減免措置をとっておりました。令和4年度会費については、減免措置を解除し規定の年間9,000円といたします。

日本理学療法士協会より会費納入の連絡があります。

会費の納入については、納入期限は令和4年3月31日です。

学術誌

理学療法ジャーナル	第55巻第12号
鹿児島県医師会報	第846号
理学療法ジャーナル	第56巻第1号
No Limit	第87巻
理学療法学	第48巻第6号
鹿児島県薬剤師会会報	第184号
鹿児島県医師会報	第847号
理学療法ジャーナル	第56巻第2号
理学療法ジャーナル	第56巻第3号
山梨県理学療法士会創立50周年記念し	
理学療法の科学と研究	第13巻第1号
理学療法-技術と研究-	第50号
鹿児島県医師会報	第848号

ニュース

静岡No.189・190 京都No.288 新潟No.197 和歌山No.94 大阪No.289 広島No.268 兵庫No.193 秋田No.203
神奈川No.290 愛知No.204 熊本No.138

<会員動向> (2.15 定期承認まで)

入会 12 件 県内異動 107 件 転入 5 件 転出 21 件 休会 59 件 休会継続 54 件 復会 1 件
退会 36 件

会員動向に関する詳細は非公開とします。

会員数 2,628 名

会員所属施設数 463 施設

役員行動録

- 12/3 鹿児島地区研修会(平名)
- 12/4 JPTA 理事会傍聴(生駒)
- 12/7 鹿児島県訪問リハビリテーション研究会会議(弥栄)
- 12/9 POSリーダー研修企画会議(平名・生駒)
第1回 始良地区症例検討会(弥栄)
- 12/11-12 都道府県講習会講師(生駒)
- 12/15 鹿児島市保健所意見交換会(平名・生駒・東條)
- 12/16 鹿児島県医療推進協議会(平名)
- 12/18 日本理学療法連盟研修・理学療法の未来を語る会(弥栄・生駒)
- 12/22 鹿児島県公益法人監査(平名・弥栄・生駒・東條)
- 12/23 鹿児島 JRAT 意見交換(平名)
- 1/7 連盟3役会(平名)
- 1/8 JPTA 理事会視聴(平名・弥栄・生駒)
- 1/12 予算会議(平名・弥栄・生駒・東條)
- 1/13 JPTA 会長 意見交換会(平名)
第2回 始良地区症例検討会(弥栄)
- 1/14 鹿児島地区研修会(平名)
- 1/15-16 都道府県講習会講師(生駒)
- 1/17 九州ブロック事務局長会議(東條)
- 1/19 3役会・理事会(平名・弥栄・生駒・東條)
- 1/20 九州ブロック士会長会議(平名・生駒・東條)
- 1/21 鹿児島県訪問リハビリテーション研究会会議(弥栄)
- 1/23 専門領域研修会(スポーツ)(平名)
- 1/30 専門領域研修会(神経系)(平名)
- 2/2 新生涯学習システム説明会(平名・弥栄・東條)
- 2/3 連盟総会研修会(平名)
- 2/5-6 都道府県講習会講師(生駒)
- 2/6 専門領域研修会(循環器)(平名)
- 2/14 十島村副村長事務局来訪 対応(東條)
3役会(平名・生駒・生駒・東條)
- 2/16 理事会(平名・弥栄・生駒・東條)
- 2/17 連盟役員会(平名)
- 2/18 奄美地区研修会(平名)
- 2/20 県学会(平名・生駒・東條)
- 2/26 九州理学療法士学術大会 事前監査(平名・東條)
POSリーダー研修・講師(平名)
明日への未来を切り拓く決起を誓う会(弥栄)
- 2/27 POSリーダー研修・講師(平名)
- 2/28 小川かつみ選対会議(平名)

～編集後記～

近頃、心地の良い暖かさを感じるようになってきたように思います。春といえば、やはり桜を観ることが楽しみのひとつです。また、私は毎年4月頃になると職場近くに咲くイペーという花が好きで、患者様と屋外歩行などをする際に一緒に観賞できるため、とても楽しみにしています。コロナ禍でなかなか外出などが思うように出来ないご時世ではありますが、日々業務に励んでいらっしゃる皆様、そして治療やリハビリを頑張っておられる患者様に心安らぐ瞬間が少しでも多くあることを願っています。また、花粉症が気になる時期でもありますので、体調管理には十分気をつけてお過ごし下さい。

今後もより良いものを発信していけるよう努めて参ります。広報誌に関してご意見等ございましたら、編集部までご連絡をよろしくお願いいたします。

編集部 尾付野 友紀

E-mail: rihabiri@gyokusyokai.com